

ダニエル書 - 第二十四番

ニムロド、ネブカドネザルとベルシャツアル

Jeff Pippenger

2023-12-19

ダニエル書とヨハネの黙示録が同じ書物であることは、旧約聖書と新約聖書が同じ書物であるのと同じくらい確かである。猶予期間が閉じる直前に、イエス・キリストの啓示の封印が解かれる。

彼は私に言った。「この書の預言のことばを封じてはならない。時が近いからである。不義なる者はなお不義を行い、汚れた者はなお汚れたままでおり、義なる者はなお義を行い、聖なる者はなお聖くあれ。見よ、わたしはすぐに来る。わたしの報いはわたしと共にあり、おのおのにその行いに応じて与える。わたしはアルファでありオメガである。初めであり終わりであり、最初の者であり最後の者である。」ヨハネの黙示録 22:10-13.

聖書的な「初出の原則」は、物事の終わりはその始まりによって例証されるという真理を含み、ダニエル書の最初の三章の重要性を強調している。なぜなら、それらは、ダニエル書と黙示録という二つの書から成る一つの書において最初に言及される真理だからである。イエスはアルファでありオメガである。それゆえ、ダニエル書と黙示録という二つの書から成る一つの書の冒頭は、終わりにおいて封印が解かれる真理を表していなければならない。ある意味では、封印が解かれる真理とは、黙示録十四章の天使たちの永遠の福音である。

黙示録第1章第1節において示されているイエス・キリストの黙示は、「時が近い」ときに諸教会に伝えられるべきメッセージであり、黙示録第1章で「近い」とされるその時は、黙示録第22章で猶予期間が終わる直前に「近い」とされる時と同じ時でなければならない。

イエス・キリストの啓示。これは、まもなく起こるべきことをそのしもべたちに示すために、神が彼にお与えになったものである。神は御使いを遣わし、これをそのしもべヨハネに示された。ヨハネは、神のことばとイエス・キリストの証し、また自分が見たすべての事柄について証言した。この預言のことばを朗読する者、またこれを聞き、その中に書かれていることを守る者たちは幸いである。時が近いからである。
ヨハネの黙示録 1:1-3

「時が近い」とき、猶予期間が閉じる直前に封印が解かれる最後のメッセージは、第二の天使と「真夜中の叫び」に関する後の雨のメッセージである。それは、七つの雷の「隠された歴史」と結びついた真理である。これは「七つに属する第八の者」の啓示であり、これらの尊い啓示すべてを織り合わせてキリストの義という美しい衣に仕立て上げる金の糸は、レビ記26章の「尊い」「七たび」である。ダニエル書1章、さらにダニエル書1章から3章までが、そのメッセージである。2章の「奥義」もまた、そのメッセージである。

ダニエル書第1章は第一の天使のメッセージを表しており、そして、ヨハネの黙示録第14章の第一の天使のメッセージの中に三天使のメッセージすべての預言的標識が表されているのと同様に、三つのメッセージのすべての預言的標識はダニエル書第1章にも表されている。これらの要素とは三段階の試験過程であり、ダニエル書第1章では食事に関する試験として表され、その後視覚の試験が続き、最終的に試金石となる試験へと至る。第1章は、第2章および第3章との関連で見ると食事の試験を表し、第2章は視覚の試験、第3章は試金石の試験を表す。黙示録14章の三天使のメッセージと、ダニエル書1章から3章は、この三段階の試験過程に対して四つの証言を提供している。

ダニエル書の第4章と第5章は、非常に深遠な預言史の一筋を示している。その筋には、少なくとも六つの明確に区別できる預言の系譜が含まれている。そのうちの一つは紀元前723年に始まり、日曜法に至るまで続く。六つのうち別の一つは、1798年から日曜法に至る歴史を表しており、その系譜の中には同時に三つの預言の系譜が表象されている。すなわち、地の獣（アメリカ合衆国）の系譜、プロテスタントの角の系譜、そして共和政の角の系譜である。これらは相まって、アメリカ合衆国の預言の系譜の始まりにおいて第五の系譜を確立する。その系譜は、1798年にダニエル書7章、8章、9章の封印が解かれたことを示す。アメリカ合衆国の預言の系譜の終わりにおいては、第六の系譜が生み出され、1989年にダニエル書10章、11章、12章の封印が解かれたことを示す。

ダニエル書四章に描かれているとおり、地の獣に関する予言の流れの始まりは「七つの時」という象徴によって印づけられ、その予言の流れの終わりもまた「七つの時」という象徴によって印づけられている。七章、八章、九章の封印が解かれることによって表される歴史の期間の始まりと終わりも、同様に「七つの時」という象徴によって印づけられている。ダニエル書十章、十一章、十二章の封印が解かれることによって表される歴史の期間の始まりと終わりも、「七つの時」という象徴によって印づけられている。

1798年の「終わりの時」にダニエル書第7章・第8章・第9章の封印が解かれたことによって始まった歴史の期間の終わりは1863年であった。「終わりの時」にダニエル書第10章・第11章・第12章の封印が解かれたときに始まった歴史の期間の始まりは1989年であった。1863年から1989年までは126年に当たる。

126年は1260年の10分の1、すなわち十分の一である。したがって、126という数は、「荒野」を表す1260年の象徴であり、その「荒野」はさらに「七つの時」の2520年の象徴である。

この事実は、地の獣の歴史において、初めにおける第一の天使の運動と、終わりにおける第三の天使の運動の双方が、その始まりと終わりに「七つの時」によって印づけられていることを示している。また、それら二つの運動を結びつけるその間の期間も同様に、「七つの時」によって表されている。

聖書的な方法論「line upon line」を適用しなければ、この種の啓示を見いだして理解することは不可能である。というのも、その方法論がなければ、封印された書は神学の訓練を受けた者に手渡され、その封印された書が何を意味するのかの説明を求められることになるからだ。彼は自らの見解への驕りから、封印されているのだから封印された書は理解できないと指摘するに違いない。そこであなたは、その封印された書を、その啓蒙さ

れた者に支配され骨抜きにされた群れの一人に渡すこともできるだろう。そして、神学者が供する作り話の料理を食べ慣れてしまったその群れは、封印された書を適用しようとはしない。真理が何であるかを定める任に当てられているのは、神学界のサンヘドリンのメンバーだけだと、彼らはよく承知しているからだ。

立ち止まって驚け、叫べ、さらに叫べ。彼らは酔っているが、酒によってではない。彼らはよろめいているが、強い酒によってではない。主があなたがたの上に深い眠りの霊を注ぎ、あなたがたの目を閉じられたからだ。主は、預言者とあなたがたの支配者、すなわち先見者を覆った。そして、すべての幻は、封印された書の言葉のように、あなたがたにはなった。人々がそれを学のある者に渡して、「どうかこれを読んでください」と言うと、彼は言う、「私は学がない」。

「それゆえ、主は言われる。この民は口でわたしに近づき、唇でわたしを敬うが、その心は遠くわたしから離れている。彼らのわたしに対する恐れは、人間の戒めによって教え込まれたものにすぎない。それゆえ、見よ、わたしは驚くべき業、奇しい業を行う。彼らの知者の知恵は滅び、彼らの賢者の悟りは隠される。主からその計りごとを深く隠そうとし、そのわざを暗闇の中で行い、『誰がわれらを見ているのか、誰がわれらを知っているのか』と言う者たちに災いあれ。まことに、あなたがたの物事を逆さまにすることは、陶器師を粘土と同じものと見なすことではないか。作られた物がそれを造った者について『彼はわたしを造らなかった』と言い、形づくられた物がそれを形づくった者について『彼には悟りがなかった』と言えるだろうか。」

このことばの一つひとつは成就する。神の前に心を低くせず、正しく歩もうとしない者たちがいる。彼らは自らの真の目的を隠し、偽りを愛し偽りを作る墮落した天使との交わりを保っている。敵は、一部暗闇の中にいる者たちを欺くために用いることのできる人々に霊を吹き込む。ある者たちは蔓延する暗闇に染まり、真理をわきに置いて誤りを選んでいく。預言によって指し示された日が来た。イエス・キリストは理解されていない。イエス・キリストは彼らにとって作り話にすぎない。地の歴史のこの段階において、多くの者が酔った人のように振る舞っている。「立ち止まって驚け、叫べ、また叫べ。彼らは酒によらずして酔い、濃酒によらずしてよろめく。主が深い眠りの霊をあなたがたに注ぎ、あなたがたの目を閉じられたからである。預言者も、あなたがたの指導者も、先見者も、主は彼らを覆ってしまわれた。」自らこそ高められる民だとみなす多くの者の上に、霊的な酔いが臨んでいる。彼らの宗教的信仰は、まさにこの聖句に表されているとおりである。その影響下では、彼らはまっすぐ歩むことができない。彼らはいの道を曲げ、曲がった道を作る。一人また一人と、彼らはよろめき、ふらつく。主は大いなるあわれみをもって彼らをご覧になっている。彼らは真理の道を知らない。彼らは科学的な策士であり、本来なら霊の目が澄んでいるがゆえに助けることができ、助けるべきであった者たちでさえ、自ら欺かれ、悪しき業を支えている。

この終わりの時代の動向は、まもなく帰趨が定まる。これらの心霊術的な欺瞞が、その正体-悪霊の密かな働き-であることが暴かれるとき、それらに関わってきた者たちは、正気を失った人ようになる。

「それゆえ主は言われる。『この民は口でわたしに近づき、唇でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れており、わたしへの恐れは人間の戒めによって教え込まれ

たものだ。だからこそ、見よ、わたしはこの民の間で驚くべきわざ、まことに驚くべきわざと不思議を行う。彼らの知者の知恵は滅び、思慮ある者の理解は隠される。主からその計りごとを深く隠し、そのわざを暗闇で行い、『誰がわれらを見ているのか、誰がわれらを知っているのか』と言う者には、わざわいだ。まことに、あなたがたの物事をさかさまにするあり方は、陶器師と粘土を取り違えるのに等しい。造られたものが、それを造った者について「彼は私を造らなかった」と言えるだろうか。形作られたものが、それを形作った者について「彼には理解がなかった」と言えるだろうか。』」

私には、私たちの経験において、まさにこのような事態にすでに出会っており、今もなお直面していることが示されています。大いなる光と驚くべき特権を与えられてきた人々が、自分を賢いと思い、主から大いに恵みと祝福を受けてきたものの、神の御手から自らを外して敵の陣営に身を置いてしまった指導者たちの言葉を受け入れてしまっているのです。世界はもっともらしい誤謬であふれかえることになるでしょう。これらの誤謬を受け入れた一人の人間の心が、神の真理の尊い証拠を偽りへと変えてきた他の人々の心に働きかけます。本来なら、申し開きをしなければならない者として、魂のために見張る忠実な守護者として立つべきであったのに、彼らは墮落した天使たちに欺かれるでしょう。彼らは戦いの武器を置き、惑わす霊に耳を傾けてきました。彼らは神の勧告を無にし、その警告と戒めを退け、惑わす霊と悪魔の教理に耳を傾けて、明らかにサタンの側に立っているのです。

本来、強い酒に酔った者のようによろめくべきではない人々が、今や霊的な酩酊に陥っている。犯罪や乱れ、詐欺、欺き、不公正な取引が、天の宮廷で反逆した指導者の教えに従って、世界を満たしている。

歴史は繰り返される。近い将来に何が起こるかを詳しく述べることもできるが、まだその時ではない。死者の姿がサタンの巧妙な策略によって現れ、偽りを愛し偽りを作り出す者と多くの者が手を結ぶだろう。私は私たちの民に警告する。私たちのただ中で、ある者は信仰から離れ、人を惑わす霊や悪魔の教えに耳を傾け、そのために真理は悪しざまに言われるようになるだろう。バトルクリーク書簡、123-125。

ダニエル書第1章は、黙示録14章の第一の天使のメッセージを表し、地の獣の初期の歴史に対応している。ダニエル書第1章から第3章は、黙示録14章の三人の天使すべてのメッセージを表し、アメリカ合衆国の終わりと一致する。ネブカドネザルは第一の天使の歴史とダニエル書第1章を表している。ベルシャザルは第三の天使の歴史とダニエル書の最初の三章を表している。

「バビロンの最後の支配者にも、その最初の支配者において型として示されたとおりに、神の見張りびとの宣告が下った。『王よ、…これはあなたに対して告げられた。あなたの国はあなたから取り去られた。』（ダニエル 4:31）。』 Prophets and Kings, 533.

次の記事で、ネブカドネザルとベルシャツアルの学びを続けます。

彼ら自身は知らなかったが彼らの間に証人が与えられていたことを示す、この神の力の顕現に畏れを抱いたベルシャザルは、生ける神の御業とその力を知り、その御旨を行うための大いなる機会を与えられていた。彼は多くの光に恵まれていた。彼の祖父ネ

ブカドネザルは、神を忘れ自分を高めるといふ危険について警告を受けていた。ベルシャザルは、祖父が人間の社会から追放され、野の獣と共に過ごしたことを知っていた。ところが、本来なら彼自身への教訓であるはずのこれらの事実を、まるで起こらなかったかのように無視し、祖父の罪を繰り返した。彼は、ネブカドネザルに神の裁きを招いたその罪をも、大胆にも犯した。彼は、ただ自ら悪を行っていたからだけでなく、培えば正しくあることができたはずの機会と能力を活用しなかったがゆえにも、罪に定められた。『Testimonies to Ministers』, 436.